くらし 育てる

親子サッカー教室

ボール1個…生まれる笑顔と安心感

下城 統

暑い時期も過ぎ、市母子福祉センター裏の畑で、コスモスがさわやかな秋風に揺れています。「行楽の秋」「スポーツの秋」と言われますが、秋空の下で、ただ体を動かすだけでも気持ちよく、開放感に浸れます。

同センターでは児童健全育成、ふれあい事業のひとつとして「親子サッカー教室」を開催しました。参加者は三―十歳までの子どもたちとその親七組十七人でした。また、ボランティアで地域のサッカークラブの若者十一人がインストラクターとして参加してくれました。ボール遊びやリレーなど豊富な内容で、まるで運動会気分で楽しいひとときを過ごしました。

参加最年少の三歳のただし君―仮名―は、グラウンドですぐにサッカーボールを見つけ、無心にけり始め、二時間あまりほとんど休むことなく動き回りました。時には砂遊びもしながら、ボールとたわむれるのがうれしくて楽しくて仕方がないという様子。ただし君のお母さんも、そんなわが子の様子に笑顔が絶えませんでした。また女の子三人も最初は雰囲気になじめないようでしたが、後半のミニゲームのころになると、すっかり打ち解け、主役を競い合っていました。

参加したお母さんは「家を出る時二人のうち一人の子は、しぶりながら来たけれど、スタッフの方々の行き届いた手伝いのおかげで、本当に楽しそうにしていました。あの子のあんな表情を見るのも久しぶりです」とうれしそうでした。また、「たくさんの方々と一緒に活動ができて楽しかったです。久しぶりに子どもと遊べてよかったです。ほかのお母さん方とも知り合い、子育ての話などもでき参考になりました」と話したお母さんは、早速メールアドレスの交換をしていました。

インストラクターからも「初対面でうまくいくかなと心配していましたが、ボール一個でこんなに楽しく汗を流せることに新鮮さとやりがいを感じました。お母さん方もハッスルしているのが印象的でした。またお手伝いができたら…」という感想がありました。

子どもがはしゃぎ、喜ぶ姿を見ているお母さんたちの表情もよかったのですが、自分の親が屈託なく楽しそうにしている顔を見る子どもたちの、安心し満足したような様子がとてもすばらしく思えた秋の一日でした。

ボール追う吾子の後追う秋日和

（市母子福祉センター館長、熊本市）

イラスト・池永久美子

私は赤ちゃん

中川 雄登（ゆうと）ちゃん（1歳）
雄稀兄ちゃんだ～いすき
父 雄一朗さん
母 美 穂さん
阿蘇郡高森町

長澤 悠眞（ゆうしん）ちゃん（1歳）
向日葵姉、楓眞兄いっぱい遊ぼうね！
父 博 司さん
母 菊 野さん
熊本市清水新地

中村 佳鈴（かりん）ちゃん（1歳）
おねぇちゃん！これからもよろしくね
父 健 二さん
母 なおみさん
熊本市帯山

中島 兜壱（とういち）ちゃん（10カ月）
智子ばぁば、今度は僕が遊びに行くヨ！
父 義 智さん
母 玲央奈さん
千葉県木更津市

ぽっこ便り

高松市の助産院から

山本 文子

ぽっこ助産院はマスコミによく取り上げられます。「新聞社やテレビ局と特別なパイプでもあるのか」とよく聞かれますが、決してそんなことはありません。私たちの施設が、みなさんに紹介するだけの価値がある、とマスコミ関係の方が判断してくださっているのだと勝手に思っています。

六月は関西テレビ、八月にはNHKでそれぞれ三十分の番組で全国放送されました。赤ちゃんと触れ合うお年寄りの笑顔、家族ぐるみのお産、弟や妹が生まれ、すこし不安定になっている子どもとスタッフの交流などが取り上げられました。

ぽっこ助産院で、デイサービスのおばあちゃんたちと触れ合う赤ちゃん連れの母さんたち。中央奥が筆者

NHKの放送があった翌日のことです。鹿児島の女性から電話がありました。「自分は今はまだ元気な一人暮らしの高齢者ですが、いずれはどこか施設に入らなければならないときが来ます。テレビで見た赤ちゃんを抱っこしたおばあちゃんの笑顔がとてもすてきで、自分もこんなところで暮らせたらと思いました。入所型の施設もありますか」という内容でした。

残念ながら入所型の施設はありません。でもとてもうれしく思いました。私たちの目指す大家族のような施設に少しでも近づいているのかなと思うことができたからです。

まだまだ広がる夢

同時にまた新しい夢ができました。それは私たち高齢者が楽しく暮らせるグループリビングを立ち上げることです。もともと私たちのスタートは、自分が行きたくなるような高齢者福祉施設をつくりたいということでした。原点を思い出させてくれました。

ある日、ふと思い立ってインターネットで「ぽっこ助産院」を検索してみました。もしかしたら何か出ているかなといった軽い気持ちでしたが、驚いたことに三十件を超える書き込みがありました。多くはテレビを見ての感想ですが、みなさん私たちの挑戦にエールを送ってくださっていました。その中に自分もこのような施設をつくってみたいというものがありました。

それにしてもインターネットの中には私のまったく知らない世界がありました。「ブログ」というのでしょうか。ぽっこ助産院で出産された方が日記を公開していて、大勢の方がそれを読んでコメントを寄せています。日記は淡々とした口調で事実を並べ、それにご本人の簡単な感想が添えられていました。

それを読んですこし反省しました。自分たちがこれくらい頑張っているのだから、当然感謝と賛辞に満ちた言葉が並んでいると心のどこかで思っていたのです。知らず知らずのうちにおごりが生まれていたのかもしれません。今一度気を引き締めるいい機会になりました。

一方で、施設の立ち上げ方を勉強させてほしいというメールや手紙も届くようになりました。私たちと同じ志を持った方々は大勢いるのです。実際に施設見学に来てくれた方もいます。大切なのは具体的な形を持った夢を持つこと、心から信頼できる仲間を持つこと、資金計画など私たちの経験をお話ししました。

今、産婦人科医の不足が叫ばれています。お母さんの出産環境は悪くなる一方です。私たち助産師をぜひ有効に活用してほしいと思います。妊娠から出産まで、医師と助産院が協力し合えば、今よりはるかに多く、助産院での出産が可能になるはずです。行政、医師、助産師が一体となって、お母さん本位の出産環境を作る必要があることを痛感しています。

私たちは、ぽっこ助産院をつくったことでもう夢は実現したと思っていましたが、まだまだ夢には続きがあることに気が付きました。自分たちだけでなく、夢を受け継いでくれる人が大勢いることを知り、うれしい限りです。夢が広がります。

＝隔月掲載

ブランコ

◇お母さん大好き！

先日、長女が幼稚園でトラブルを起こした。…まで娘とのかかわりを省しつつも、今後どうしたらよいのか悩んでたある日のこと。

お迎えの時、娘が開一番「お母さん、だいすき！」と言った。

おん

何をするにも…だった。それが…ちの「思春期突…も壊れて久し…ところが最近、反…ずい分と大人に…たちが一人、二…に戻ってきた。…前とは少し変わ…

十八歳の長女…女、そして私は…わいい服やアク…して、プラプラ…しんだり、ダイ…の夜間ウオーキ…と、女だけの楽…ている。

この夏は、女…